

# 仁川を歩く 阪急仁川から苦楽園口へ

第 50 回武庫川エコハイク  
2011.5.14 エコグループ・武庫川

**武庫川** 全長 65km、流域面積 500km<sup>2</sup>、篠山市、能勢町、三田市、神戸市北区、西宮市、宝塚市、伊丹市、尼崎市の 7 市 1 町を流域に持ち県内有数の人口・資産を抱える 2 級河川である。「武庫川」の名は下流の右岸が武庫郡であり、武庫郡は日本書紀にある「務古水門（むこみなと）」からとか、浪速から見て「向こう」にあるからとか諸説がある。

2 級河川だが流域に阪神地帯を抱え流域人口では全国第 10 位である。「阪神間の母なる川」である。上流から三田盆地までは緩やかに流れ、中流には武庫川渓谷で V 字谷になる一風変わった川である。この渓谷は六甲山の隆起とともに武庫川に洗刻された先行河川である。ここに県営ダムを作る計画があったが豊かな自然環境を破壊するすることで反対する市民運動が持ち上がり、県は流域住民を含めて武庫川流域委員会を設置して 2 年半にわたり協議した結果、22 年 10 月、ダムは検討に時間がかかることから、20 年間はダムによらず流域対策と堤防強化、河道掘削で治水対策を実施することとなった。

**仁川駅** 大正 10(1921)年、阪急西宝線(西宮北口—宝塚間)が開通、仁川に駅が設置された。阪急神戸線(大阪—神戸)開通は前年の大正 9 年。

**仁川** 西宮夷神に山の幸を奉ずるに贅部(にえぶ)が住んでいたことから贅川(にえかわ)が訛ったものか、天井川で大雨の時にしか流れないにじみ川からとか言われている。六甲山頂近く石の宝殿の南側に源流を持ち、甲山の北側を通り、仁川渓谷を抜けて流れる。暴れ川仁川の河川改修が完成したのは大正 10(1921)年。

仁川は流路が短く大雨となると流れは急になり何年に 1 回は当時の堤防を越えて冠水を起こしていた。仁川 5 丁目、関西学院の所に段差があるのは当時の堤防の跡である。ここには数本の松が名残りを見せる。仁川に水の利用については武庫川下流や台地の開拓に伴い、水の確保に苦労した歴史がある。

**山之井顕彰碑** 段上、大市地区の用水を仁川渓谷の中にトンネルを掘り取水した庄屋松山五郎右衛門の功績を称えて貝之助(段上)墓地の一角に建立された。

山之井は現在西宮市上水道の水源である。

**上ヶ原用水** 上ヶ原台地には弥生時代の遺跡などが残っているが、上ヶ原は台地であり、稲作に転ずるために仁川渓谷の大井滝(大堰)から取水し現在は仁川渓谷の中腹をトンネルで抜けている。途中関西学院の厩裏にある分水樋は上ヶ原新田、門戸、神呪の 3ヶ村に 3 尺 6 寸 2 分:5 寸 6 分:6 寸 6 分に分けられている。

**関西学院構内古墳** 上ヶ原台地には多くの古墳が発見されている。そのうちの 1 個が関学構内で発見された。古墳時代後期(6~7 世紀前半)のもの、西宮指定文化財。

**地すべり資料館** 平成 7(1995)年阪神淡路大震災の発生により仁川右岸の斜面で幅、長さともに約 100m 厚さ 15m の地すべりが起きた。約 10 万 m<sup>3</sup> の土砂が流れ出し、仁川を埋め、家屋 13 戸が流失、34 名の方が亡くなった。原因として斜面が盛土で形成され、地層が下部で

## この事業はコベルコ自然環境保全基金の助成を受けています

二重構造になっており、すべり面が隠れていたこと、地中に水分が多く含まれていたことなどが考えられていた。今はこれらの対策が施されている。

資料館前を流れるのは「上ヶ原用水」、裏の斜面下を流れるのが「山之井用水」である。資料館の位置するのは仁川百合野町の百合野は平地が山に入った土地を意味するともいわれたが、「ユリ」は「ユルギ」を意味するともいわれ、阪神大震災を予告していたのかもしれない。

**仁川渓谷** 地すべり資料館の上流から広河原までの間に仁川渓谷がある。「六甲の黒部」とも呼ばれる。立ち入り禁止になっているが、ロッククライミングのメッカでもある。

**県立甲山森林公園** 昭和 45(1970)年開設。82.5ha、85%が森林で占められる。

**甲山** 標高 309m。甲山は六甲山と異なり、およそ 1200 万年前に噴火によって生まれた二上山、石鎚山、屋島と同じ安山岩質の山である。初めは今より裾野の広い大きな山であったが風化によって火口付近だけが残り現在の山容になった。六甲変動が起きたのは 50~60 万年前のため、甲山は古代湖に浮かぶ島であったという。(登らないが説明)

**五ヶ池** 五ヶ池は仁川の利水のため五ヶ山に掘られたため池。大市庄五ヶ庄(上、下大市、段上、門戸など(行かないが説明))

**甲山自然環境センター** 昭和 42 年「甲山自然の家」として開設、平成 14 年「甲山青年の家」に改称。その敷地内に開設された。

**甲山湿原観察園** 甲山自然観察センターの裏に甲山湿原群がある。特別保護地区に指定されている。

**広河原(もと仁川ピクニックセンター)** 昭和 26(1951)年阪急電車により仁川ピクニックセンターが開設され、多くの人で賑わった。平成 7(1995)年阪神大震災の後、放置され現在の広河原となった。この結果自然が復元し多くの生物が見られる。

**北山貯水池** 西宮市上水道の貯水池。昭和 43(1968)年完成の人造湖で 5 つのアースダムからなり、観音川、仁川の水を集め北山および越水浄水場へ送水される。放水路(=夙川起点)は水分谷を経て銀水橋付近で夙川上流に注ぐ。

**湯の口取水口** 仁川本流の盤滝口にある。下部と山の南麓の広田神社一帯の社家郷山の水は仁川本流に流れ、社家郷に流れないのでこれを社家郷に流そうと仁川から取水するため堰を設け、トンネルを掘り湯の口とした。仁川下流の五ヶ庄(大市庄ほか)の農民がこれを妨害しようとしたが、広田神社神官であった中村紋左衛門が神官の装束に般若の面をつけて岩上に立ちこれらの農民を畏れさせ作業が順調に進んだという伝承がある。広田神社境内に「兜籠底績碑(とろくていせきひ)」が建てられている。今は北山貯水池から夙川に送られている。

**西宮市北山緑化植物園** 昭和 57(1982)年開園。面積 9ha。樹木、宿根草あわせて約 1300 種。園内に植物生産研究センター、緑の相談室などがある。

入口付近の石積みに元和元(1620)年徳川氏大阪城築城時の残石が使われている。

**夙川** 中国街道、西国街道が合流する位置にあり、往来の人で賑わい宿場ようになったことから、宿川→夙川となった。堤防の桜が有名。